投信フォーラム2010 in 岡山

～資産運用は時間を味方につけましょう～

回復基調にあるとはいえ、依然として不安定な世界の金融市場。これからも続く低金利時代、「貯蓄から投資へ」という流れの中でどのようにして資産を守り、運用していけばよいか―。資産運用の必要性や投資信託のしくみ、メリットなどを紹介する「投信フォーラム2010 in 岡山」が、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールで開かれた。ファイナンシャルプランナー（ＦＰ）の木村佳子氏が資産運用のノウハウなどを説明。玉野市出身の作家・高嶋哲夫氏による特別講演もあり約280人が聴講した。

主催／投資信託協会、全国地方新聞社連合会、山陽新聞社　後援／金融庁、金融広報中央委員会、岡山財務事務所、大阪証券取引所、信託協会、全国銀行協会、東京証券取引所グループ、日本証券業協会、日本損害保険協会、不動産証券化協会、共同通信社

FPによる投資信託セミナー

「投資信託で明日を開く～マーケットの見通しから考える賢い運用法～」

木村　佳子氏（資産運用アドバイザー、株式評論家、一級FP技能士）

きむら・よしこ　ラジオ日経で15年間個人投資家向け経済情報番組のパーソナリティーを務めた後、全国各地で講演や評論活動を展開。著書に「株はじめての買い方・売り方」「自分のお金、増えていますか」「株価チャートの基本がしっかりわかる本」など多数。

政治、経済情勢把握して

現代は長生きできる時代になりました。家族や社会とのつながりを保ち、健康を支えるためにはお金が必要です。将来には「まさか」と思うことが起こり状況が変化するものなので、変化に負けない準備と資産運用が重要になります。

例えば日本では、バブル崩壊のあった1990年代、リーマンショックのあった2008年などに経済成長率が急落する「まさか」が起きています。こうしたときにできるだけ資産を減らさない工夫が必要です。

景気の動きの一番早いシグナルは株価で、景気先行指数の一つにもなっています。株価が急落すれば、企業の業績が悪化し税収が減り、財政危機に陥ります。円の価値が下がれば外資による日本企業の買収が進んだり、日本経済の常識を超えるようなことが起こる可能性もあります。

世界の動向にアンテナ張って

世界の動きを見ておくことも大切です。例えば米国では今後4年間、毎年100兆円規模の投資をして中間所得層の雇用を生み出し、景気回復を図ろうとしています。そして日本と中国は米国債を購入して支援しています。

一方、中国では2012年から13年中にトップが交代。胡錦濤国家主席の後継候補者として習近平さんが注目されています。もし新政権が方針を変えて米国債の購入をやめたら、米国の政策が行き詰まるかもしれません。日本へも悪影響があるでしょう。

ほかにもさまざまな情報にアンテナを張ってください。インターネットという情報インフラの充実により、マーケットは世界の情報に24時間連動しているからです。

日本の国債を持っているのはほぼ日本の団体・個人で、海外資本は6・1%しかありません。対外債務が多く財政危機になったギリシャに比べると、日本は身内から借りているため急な財政危機に陥ることはなさそうです。ただ国債発行を続ければ国債の格付けが下がり、国債を保有する日本の銀行に対する不安感が高まる可能性があります。

投信のしくみやメリットについて紹介された「投信フォーラム2010 in 岡山」

経済成長予測の一つ、人口構成

こうした情報を基に今後どの国が伸びるかを予測し、バランス良く投資することが大切です。経済成長を見通すヒントの一つは人口構成です。労働人口比率が減り始めると経済成長は鈍ります。中国は2030年が人口増加のピークだそうです。人口構成を見ながら、次に成長しそうな国を探してみてください。

日本の株式市場は法人がずっと株を持ち合うような構造で株価が安定していましたが、1990年代から右肩下がりが続き、法人は価値の下落を嫌って株を持たなくなりました。リーマンショック前までは外国人投資家が市場の6、7割、続いて日本の個人投資家が1、2割を占め、今も同様の状態です。純粋投資家である外国人と個人はもうからないとすぐ株を売るため、株価の予測が大変難しくなっています。

今後の投信運用のヒント

これから投資信託を運用する際のヒントは何でしょう。景気の回復時期については、1929年の恐慌では、再び恐慌前の水準に戻るまでに4年かかりました。リーマンショックによる恐慌後の株価も29年のときと似た動きをしているので、恐慌から4年後を回復の目途としてとらえる考え方もできます。

投資をどう配分すべきか考えるとき、今後は世界的好況になるのか、部分的に好況になるのか、どの国が成長するのか、波乱はあるのかなどがポイントになります。オリンピック景気が期待されるブラジルなど各国にもさまざまな投資のヒントがあります。何年先を見て何を組み合わせるか、投資家の目線と同時に、金融商品を企画する人の目線でどんな商品がいいか考えてみてください。

投資信託の中でも市場で株と同じように売り買いできる不動産投資信託（ＲＥＩＴ）や、上場投資信託（ＥＴＦ）があります。ＲＥＩＴには、オフィスビルなどに投資するもの、物流施設や研究開発などのインフラ施設に投資するものがあります。不動産借り手不足、火災、事故などが起こることを考慮し、集中投資は控えた方がいいでしょう。ＥＴＦはさまざまな種類がありますが、値動きの緩い電力・ガス、値動きが早くて大きい南アフリカランド、株式市場とは違う動きを見せている金連動投資などを組み合わせるのもよいでしょう。

商品購入のチャンス見逃さずに

物が普及するときの消費者行動について、ある商品がいいと思ったとき、真っ先に買う人は2・5%、少し遅れて追随する人が13・5%、さらに購入者が増えてピークを過ぎたあと、最後に買う人は16%いるという説明があります。最初に買う16%の中にみなさんがいれば、後から買う人たちが商品の価値を押し上げてくれるので、いつでも売ればもうかる状態になります。

現在は誰も買おうとしない商品の中から、今日お話ししたヒントを参考にして成長する可能性のある商品を探してください。

特別講演

「作家の人生設計」

高嶋　哲夫氏（作　家）

留学先の出会いから作家に転向

私は現在神戸市に住んでいますが、玉野市の出身で、もともと理系の人間でした。小学校ではいい先生にめぐり合い、文学全集などを読んでいましたが、中学校時代は海や山で大いに遊び、高校では科学者を夢見て勉強ばかりして、受験用以外の本はあまり読んでいませんでした。

大学院修了後に日本原子力研究所研究員となり、米国のＵＣＬＡ（カリフォルニア大ロサンゼルス校）へ留学。そこまでの人生設計はとても堅実でした。留学先では優秀な人々に囲まれ、理系分野での自分の限界を実感。同時期に文学を志す友人に出会い、「自分にも書ける」と思って作家に転向してしまったのです。

作品には、山陽新聞で連載された小説「決壊」を書籍化した「ジェミニの方舟」、映画化された「ミッドナイトイーグル」などがあります。出版社の調査によると、読者層は40代男性で、ある程度社会的な意識の高い人。私の読者層は決して広くありません。

作家の収入は、連載、単行本化、ノベルス（新書）化、文庫化、映画化、ＴＶドラマ化、ＤＶＤ化―という過程で入る原稿料、印税、著作権料などです。

ただ、作家に入る印税率は売り上げの10%程度。出版不況で本の印刷部数は減っていて、純文学だと初刷りで3000～4000部程度です。作家はよく書く人で年間2、3冊出版しますが、ほとんどは文庫化の段階までで終わるため、計算するとあまり〝おいしい仕事〟とは言えません。

文学賞の賞金は大きな収入になります。私は「イントゥルーダー」でサントリーミステリー大賞を受け、賞金1000万円をもらいました。ただ、こうした賞を取ったあと、ほとんどの作家は仕事が続かず消えてしまいます。作家になるより、作家であり続けるほうが難しいのです。人生設計なんて立てられない。ある種、〝ばくち〟のような仕事です。

たかしま・てつお　玉野市生まれ。慶應義塾大大学院修士課程修了。日本原子力研究所研究員を経て米カリフォルニア大留学。1999年「イントゥルーダー」で第16回サントリーミステリー大賞・読者賞を受賞。

一発勝負に生きる楽しみ

私の投資は15年前から

そんな私が持っている投資信託は、証券会社で買った積立株式ファンド。ちょうど1995年の阪神・淡路大震災のあとに勧誘されて、地震のあとだから建設分野がいいだろうと思って建設関係の商品を買いました。あと銀行で買った日経225ノーロードオープンでは、毎月1万円の投資を続けています。

作品のハリウッド映画化目標

作家は一発勝負に生きるしかないし、それが楽しみでもあります。現在目指しているのは作品のハリウッド映画化。先日も「メルトダウン」「命の遺伝子」「乱神」などの作品を持って米国へ行き、関係者に会いました。作品が映画化すれば著作権料が入って本も売れ、大きな収入になります。さらに著作権は死後50年間保護されるので、作家にとって非常に重要です。

今後のビジネスチャンスを感じるのは電子書籍です。ある米国企業が電子書籍の印税率を70%にすると言っていました。電子書籍の価格は安いので実質的な印税はあまり上がらないかもしれませんが、社会的に大きなインパクトとなるでしょう。

私は神戸に住んで震災を経験し、人生観が変わりました。生きているからこそ幸せが感じられる。「オンリー・ワン・アンド・オンリー・ワンス（ただ一人、そしてただ一度）」の人生を楽しく幸福に、そして堅実に生きたいと思います。

困るのは、届く資料の内容が難しすぎて分からないこと。自分の商品について「今、得しているのか、損しているのか」がすぐ分かる内容にしていただければありがたいですね。

会社勤めをしている友人は厚生年金に入っていますが、私は国民年金が頼りです。私の両親は堅実な人で、私がかつて海外留学していた4年間も、私の代わりに掛け金を払い続けていました。これを知った時は本当にうれしくて、今でも感謝しています。

企画・制作／山陽新聞社広告本部

資産運用は、時間を味方につけましょう。

社団法人 投資信託協会

リスクを小さくするための方法、知っていますか？
「資産の分散」「長期の保有」そして「時間の分散」です。

値動きのある投資信託は、時間を味方につけて、
少しずつ分けて購入することでリスクを分散。
資産運用、考えてみませんか。

詳しくは投資信託協会のホームページ、ガイドブックをご覧ください。

投資信託を知りたい方に

無料 ガイドブックプレゼント（各1冊セット）

ご希望の方は、投資信託協会ホームページからお申し込みください。ハガキの場合は郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。（お届けは2週間前後となります。）

〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町2-1　東京証券取引所ビル6階
（社）投資信託協会SY係

※いただいた個人情報は、本ガイドの送付のほか、当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。

（2010年版）　（2010年版）

携帯電話はこちら

投資信託協会では各種講演会やセミナーを開催しています。詳しくはホームページのセミナー情報をご覧ください。

投資信託協会　検索　www.toushin.or.jp